

## 善通寺市「ゼロカーボンシティ」宣言

本市は、温暖な瀬戸内海と緑豊かな山々に囲まれ、その豊かな自然や、多くの古墳群、高僧弘法大師の足跡などの貴重な歴史的・文化的な資源は、私たちの将来の世代に長く引継がれていかなければなりません。しかし、近年の我が国の状況は、台風の巨大化、集中豪雨、猛暑等がもたらす自然災害が頻発しており、それらは、人類の活動により排出される温室効果ガスの影響によるものと言われていることから、この「気候危機」というべき極めて深刻な状況の解決は、もはや避けることのできない喫緊の課題です。

2015年に合意されたパリ協定では「産業革命からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有され、2018年に公表されたIPCC（国連の気候に関する政府間パネル）の特別報告書では、この目標を達成するには「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

本市の二酸化炭素削減の取り組みは、市民参画のゴミのリサイクル事業を全市的に展開し、循環型社会の構築に努めたことに始まり、近年では、遊休市有地に建設した太陽光発電所からの売電収益により、市内の防犯灯及び街路灯を消費電力の少ないLED照明に交換し、その維持管理費や電気代も負担するなど、低炭素・循環型社会づくりに邁進しております。

そこで、本市が将来像として掲げる「住んでみたい・住み続けたいまち 善通寺」の実現のため、また、かけがえのない私達の故郷を未来の世代につないでいくために、さらに高い環境課題への取り組みとして、2050年までに本市の二酸化炭素の排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」に挑戦することをここに宣言します

令和 2年 9月16日

善通寺市長 平岡 政典